ottobock.

We empower people.

オットーボック・ジャパン株式会社

会社案内

Mission

私たちのミッション

We empower people.

私たちは、人々が自分らしく生きるためのサービス・製品を提供しています。

100年以上にわたり、私たちはすべての行動において「人」を第一に考えてきました。
生活の質は個人の自由や自立と密接に結びついています。そのため私たちは、イノベーションと卓越した技術に注力し、総合的なアプローチとグローバルな活動を組み合わせて、ユーザーのモビリティを向上させるための努力を続けています。ユーザー目線で世界を見ることを心がけ、敬意と勇気とコミットメントをもってこの目標を追求しています。

未来へと続く創業者の志

1919 年にオットーボック社を設立したオットー・ボックは、ユーザーのモビリティに関する課題を解決するために、人を中心に据えた総合的なアプローチをビジネスの基本に組み込みました。以来 100 年以上にわたり、私たちは革新的な製品を生み出し、人々に焦点を当てた解決策の歴史を築いてきました。
今日、この考え方は新しい技術の進化や生体力学の進歩にも引き継がれています。デジタル革命が社会を変え、世界は大きく変わりましたが、ブランドの進化とともに、私たちはどのような将来にも対応できるよう備えています。

革新への情熱と守るべき価値観を持った現代的なファミリー企業

「開拓精神、勇気、決断力」は、1919年にオットー・ボックがベルリンで Orthopädische Industrie GmbH を設立して以来、私たちのモットーです。1947年、マックス・ネーダーが新たに設立された Orthopädische Industrie KG の社長に就任、1990年、ハンス・ジョージ・ネーダーが 28 歳で経営を引き継ぎました。4代目に入っても、オットーボック社はオーナー経営を続け、世界中に拠点を持つ強力なブランドへと発展しています。

義肢装具における グローバルマーケットリーダー

2023年の売上高
15億ユーロ（約2,400億円）

ペイシェントケアセンター
約400カ所

従業員数　世界約60カ国
9000人以上

活動範囲
135カ国

グローバル約60カ国で9,000人以上の従業員が、人々の自分らしい生活と自立を目標に働いています。

1919 年にベルリンで創業。現在、本社はドイツ ドゥーダーシュタットに置き、約60カ国に拠点を展開、135カ国で活動しています。

We empower people.

History

革新と挑戦の歴史

オットーボックは 100年以上にわたり、革新的な製品を開発してきました。日々、私たちはユーザーの生活の質を向上させることを目指し、研究開発への惜しみない投資を続けています。今日、私たちは義肢装具技術の最前線において世界的なマーケットリーダーであるのみならず、人体の一部を支持または代替するウェアラブル・ヒューマン・バイオニクスの技術における世界的リーダーとなっています。

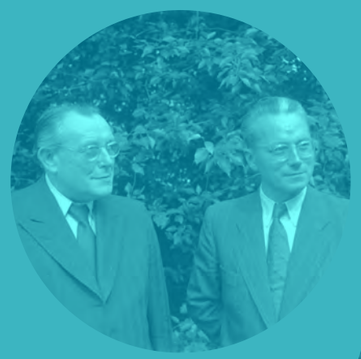
事業

1919

創業者オットー・ボックがベルリンに Orthopädische Industrie GmbH を設立。義肢パーツの工業生産化は業界に革命的変化をもたらしました。

1920

ベルリンの政情不安により、会社をテューリンゲン州ケーニッヒゼーに移転。



1947

創設者の娘婿マックス・ネーダーが社長に就任するも、ケーニッヒゼーの拠点が補償なしで旧東ドイツ政府に没収され、現在の本社所在地であるドゥーダーシュタットで新たにビジネスをスタート。

1958

米国ミネアポリスに初の海外支社を設立。

1969

最初のオットーボック義足用モ ジュラーシステムを発表。同年特許を取得したピラミ ッドはモジュールの交換を可能にし、今日に至るまで 革新的なジョイントシステムの要素となっています。

1965

筋電義手を市場に投入。今日でもオットーボックの筋電義手は世界のスタンダードとして広く使用されています。

製品

1988

ソウルパラリンピックでの技術サポート。現在につながる長期パートナーシップの始まりとなりました。

1990

東西ドイツ統一により、ケーニッヒゼーの生産拠点を買い戻す。同年、マックス・ネーダーの息子ハンス・ジョージ・ネーダーが経営を引き継ぎました。

1997

世界初のコンピューター制御膝継手となる C-Leg を発表。義足歩行の新たな次元を切りひらきました。

2011

初代 Genium の発売。障害物を踏み越えたり、一歩ずつ階段を上るだけでなく、初めて義足で後ろ向きに安全に歩くことを可能にしました。

2018

世界初のコンピューター制御 KAFO となる C-Brace を発売。革新的なセンサー技術により、ほぼ自然な歩行パターンでの歩行が可能となり、麻痺症状のあるユーザーのケアに革命をもたらしました。

2020~

デジタルトランスフォーメーションを加速。3Dプリンターを使用した装具とソケットなど、メディカルサプライの未来の形を提案していきます。

現在

4 代目となった現在も、オットーボック社はオーナー経営のファミリー企業であり、世界中に拠点を持つ強力なブランドへと発展しています。

Ottobock Japan

オットーボックジャパンについて

オットーボック・ジャパン株式会社は、1999年にオットーボック社の日本法人として設立され、最先端の医療福祉機器の普及に向けて様々な取り組みをスタートさせました。最高品質の製品・技術・サービスにより、「人々が再び自立した生活を取り戻し、自由に活動が行なえるようになるためのサポートをする」という理念のもと、常にユーザーの視点に立ち、日本の医療福祉分野において新しい価値観を創造していきたいと考えています。
2023年に移転した新オフィスでは、セミナールーム、試歩行スペース、製作機械等を備え、定期的にユーザーの皆様に密着した情報発信を行っています。
2024年には設立25周年を迎えました。これからもすべての人のモビリティのために、お客様との信頼関係を構築してまいります。

ボックス席やスタンディングデスクを備えた執務エリア

Message

ご挨拶

オットーボック・ジャパンの存在意義とは

義肢装具士養成校を卒業した春、オットーボックに入社してから今日まで、この言葉を自問し続けてきました。
営業、マーケティングと役割が変化する中で答えは増え続け、代表となってからも自問は続いています。

エンドユーザーの皆様には安心を。
医療関係者の皆様には信頼を。

このふたつは弊社の根本的な存在意義です。
知識豊富なスタッフによる営業活動、臨床現場に役立つセミナーのご提供、幅広い販売網、
多様な試着・代替品のご用意、主要製品の国内修理メンテナンス。安心と信頼のご提供のため、
これらのサービスは揺らぐことなく強化してまいります。
加えて、既成概念にとらわれることなく、サービス範囲を広げる必要があると考えています。
私達がお役に立てることは、たくさんあるはずです。
私自身、義肢装具士であり、義足ユーザーの家族でもあります。
製品を提供するメーカーとしての立場を超え、多様な声に寄り添うことで、
あるべき意義が明確になると信じています。

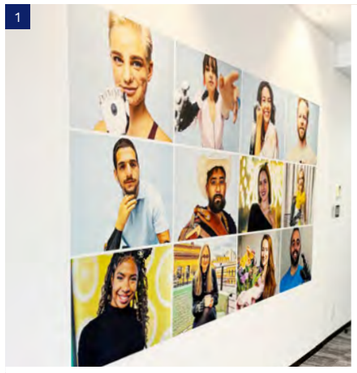
今後も、日本の福祉業界、社会にとってオットーボック・ジャパンが果たすべき役割を、追求してまいります。

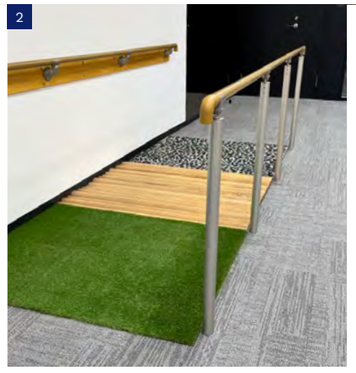
オットーボック・ジャパン株式会社　代表取締役社長
深谷 香奈

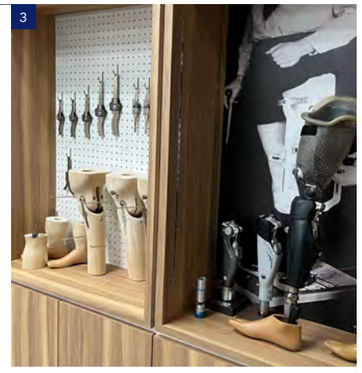
Office

オフィス

1. エントランス／ 2. 試歩行用不整地／ 3. ミーティングルームディスプレイ／ 4,5. 工作機械を備えたワークショップ







Our Business

私たちのビジネスについて

経験・知識豊富なスタッフによる義肢装具施設へのアプローチ

試着サポート

専門スタッフが帯同し試着をサポートします。

セミナー

義肢装具士、医師、セラピスト等医療従事者向け各種セミナーを開催し、最新の技術や臨床現場の情報などをお届けしています。

技術サポート

医療福祉関係の大学や専門学校への講師の派遣や製作セミナーを開催しています。

学会・展示会

学会や福祉機器展では展示のみならず、最新技術のデモンストレーションを実施しています。

ユーザーに寄り添ったサービス体制

多種多様なデモ機

ユーザー一人ひとりに最適な製品を提供できるよう、試着・試乗用デモ機を豊富に取り揃えています。修理・メンテナンス中の代替品もご用意しています。

ユーザーイベント

トップアスリートを講師に迎えたランニングクリニックやゴルフクリニックを開催し、ユーザーが健康で前向きな生活を送るサポートをします。

試乗会

完全予約制での車いす・歩行器のプライベート試乗会を定期的に開催しています。

国内修理

ドイツ本社のトレーニングを受けた有資格者が日本国内で修理をするため、迅速な対応が可能です。

※一部の製品は本社にて修理を行っています。

Products

取扱製品

現代の義肢はいくつものパーツを組み合わせて製作されます。オットーボックでは、多種多様なニーズに応える義肢製作を可能にするため、業界最多の製品ラインナップを揃えています。

Lower limb prosthetics

義足

下肢を外傷や病気などで失った方が脚の代わりに用います。コンピューター制御膝継手など、より安全に、より快適に、装着者のニーズに応えるよう様々な製品をラインナップしています。

Upper limb prosthetics

義手

上肢を外傷や病気などで失った方が腕の代わりに用います。1965年にドイツ本社にて開発された筋電義手は全世界で多くの方に使われています。

Orthotics

装具

ケガや病気により失った体の機能を補助するためや、治療のために保持・固定する際に用います。義肢装具士がオーダーメイドで装具を製作するためのパーツとなるジョイントシステム製品と、サポーターなどの既成装具製品があります。

Seating & Positioning solutions

車いす・姿勢保持

オットーボックの車いすは、身体状況や日常生活の変化に応じたフィッティングが可能なだけでなく、ドイツ基準の優れた剛性と耐久性を兼ね備えています。

Sportsline products

スポーツプロダクト

オットーボックのスポーツ用義足は、優れた性能と耐久性が評価され、世界中のアスリートに使用されています。またウィンタースポーツに特化したスポーツ義足もラインナップしています。

For children

小児用

お子様のサイズに適したパーツを取り揃えています。お子様にとっての「モビリティ」は、より多くの社会参加の機会を獲得し、心身の発達のチャンスを広げる手段となります。また、お子様と生活するご家族のサポートにもつながります。

Materials / Machines / Tools

材料・機械設備・工具

樹脂、積層材、プラスチックシート材など義肢装具の製作に必要な材料を幅広く取り扱っています。また、物づくりを支える作業性の良い機械・工具も取り扱っています。

Commitment

スポーツと社会へのコミットメント

スポーツへの取り組みはDNAの一部 ～共に、そして互いのために動く

オットーボックは、30年以上にわたって障がい者スポーツを推進してきました。“Passion for Paralympics”（パラリンピックへの熱き想い）をモットーに、国際パラリンピック委員会（IPC）のパートナーとして、多くの障がい者アスリートをサポートできることを誇りに思い、彼らのモビリティに全力で取り組んでいます。

Paralympics Support

パラリンピックサポート ～30年にわたりアスリートをサポート

オットーボックとパラリンピックとのパートナーシップは、1988年のソウル大会から始まりました。以来、オットーボック社はパラリンピックの夏季・冬季大会のすべてに参加し、アスリートたちが公正でスポーツマンシップに則った方法で競技に参加できるよう、道を切り開いてきました。

始まりは小さなテントから

1988年のソウルパラリンピックにて、30年以上続くパートナーシップの礎が築かれました。当初小さなサービステントで4人の義肢装具士が自発的に始めた取り組みが、今や国際パラリンピック委員会（IPC）との何十年にもわたる協力関係へと発展しました。

24時間テクニカルサービス

テクニカルリペアサービスセンターは、選手村と一部のトレーニング施設や競技会場に設置されます。また、設備の整った移動式テクニカルリペアサービスセンターも併設しています。アスリートが機器の不具合を気にせず競技に集中できるよう、世界各国から集められたトップレベルの技術者が迅速かつ最善のサービスを無償で提供しています。使用する機器のメーカーを問わずあらゆる修理に対応できるよう、競合メーカーのパーツも取り揃えています。

義肢、装具、車いす、外骨格装置

東京2020
パラリンピック競技大会

2021年8月24日から9月5日まで、第16回夏季パラリンピック競技大会が東京にて開催されました。オットーボックは、パラリンピック競技大会における歴史を引き継ぎ、オフィシャルサポーターとして選手が使用する機器のメンテンナンスと修理サービスを無償で提供しました。8月17日、パラリンピック選手村にテクニカルリペアサービスセンターを開設。ドイツから輸送された18トンもの修理サービス用機械設備が整然と整理された環境で、24カ国から集結した106人のテクニカルエキスパートが、その専門知識と熱意でパラリンピアンやパラリンピック・ファミリーを支えました。車いす、義足、装具、その他の補助器具は、使用中に極度の負荷にさらされます。そのサポートは、車いすのタイヤに空気を入れるだけの作業から、複雑な修理まで多岐に渡ります。

全体で2083件の修理が行われました
車いす：1490台
義足：328件
装具：59件
その他の機器：206件

Running Clinic

ランニングクリニック

メダリストと一緒に走ろう

オットーボックでは、多くの下肢切断者の方々に、スポーツを体験し、走る喜びを感じる機会を持っていただけるように、ロンドン2012 / リオ2016で金メダルを獲得したハインリッヒ・ポポフを指導者とした「ランニングクリニック」を開催しています。世界各国でランニングクリニックが開催され、スポーツ義足を初めて装着する方から、競技大会に出場している選手まで、様々な方が各地から参加しています。日本ではポポフと共に、パラリンピックメダリスト山本篤氏を講師に迎え、2015年より開催しています。2019年からは兎澤朋美選手も講師に加わり、さらにパワーアップして開催しています。

感動を与えるスポーツ

ランニングクリニックの目的は運動能力だけではありません。ハインリッヒ・ポポフは、参加者がトレーニング中に自分自身に新たな自信を持てるようにサポートします。彼は、参加者が特別でユニークな存在であること、そしてそれを受け入れることは自分自身から始まることを教えます。

ランニングクリニック・トレーナー
ハインリッヒ・ポポフ

8歳の時、腫瘍により膝関節から切断。13歳から陸上競技を始め、2004年のアテネ大会でパラリンピック初出場。100m、200m、走り幅跳びで銅メダルを獲得。2008年の北京大会では100m銀メダル、2012年のロンドン大会は金メダルを獲得。2016年のリオ大会で走り幅跳びで金メダルに輝いた。2018年に引退し、パラリンピックのサポート、全世界においてランニングクリニックの普及、陸上競技の指導等を行っている。

> *“スポーツは私に信じられないほどの感謝の気持ちを与えてくれた。自分の経験をできるだけ多くの人と分かち合うことが私の義務だと思っている。それは、切断者を一流のアスリートにすることではなく、スポーツがどれだけ彼らの生活の質を向上させることができるかを伝えることです。義足であるにもかかわらずスポーツをするのではなく、義足があるからスポーツをするのです。”*
>
> *ハインリッヒ・ポポフ、ランニングクリニック・トレーナー*

Ambassadors
アンバサダー

オットーボックでは、様々なスポーツで活躍する世界中のアスリートをサポートしています。彼らアスリートたちは、パラリンピックへの情熱を共有し、アンバサダーとして障がいのある人々のスポーツとアクティブなライフスタイルの推進に尽力しています。日本からは兎澤朋美選手（陸上）がグローバル・アンバサダーとして、鳥海連志選手（車いすバスケットボール）がローカル・アンバサダーとして活躍しています。

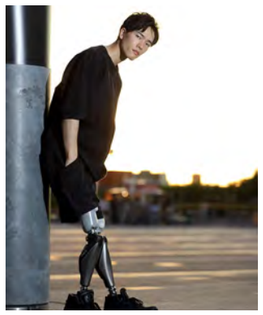
兎澤 朋美 選手

10歳で骨肉腫により左大腿部で切断。日本体育大学に入学し本格的に陸上を開始。2017年オットーボックのランニングクリニックに参加し、パラアスリートとしてのキャリアをスタートさせる。ドバイ2019世界パラ陸上 走り幅跳び銅メダル / 東京2020パラリンピック競技大会 走り幅跳び 4 位、100メートル8位 / 神戸2024世界パラ陸上 走り幅跳び銀メダル、100メートル銀メダル
2021 年 4 月から富士通所属。

> *スポーツは私にポジティブな変化をもたらし、人生に明るさと幸せを取り戻させてくれました。多くのパラリンピアンの素晴らしいパフォーマンスを見て、また、自分もスポーツに参加するようになったことで、自分に自信が持てるようになりました。今では、日常生活でできないことはほとんどありません。今は、かつての私のようにネガティブな感情を抱いている人たちを励ましたいと思っています。*
>
> *兎澤 朋美*

鳥海 連志 選手

生まれつき両手足に障がいがあり、両下肢を3歳の時に切断。中学 1 年生の時に学校関係者に誘われたことがきっかけで、2011 年、中学 1 年生の時に佐世保 WBC で車いすバスケットボールを始める。2015 年、日本代表として三菱電機 2015IWBF アジアオセアニアチャンピオンシップ（千葉）に出場し、その後、チーム最年少の 17 歳でリオ 2016 パラリンピックに出場。東京 2020 パラリンピックでは大会史上初の銀メダルを獲得し、大会 MVP も受賞した。翌年、IWBF 男子 U23 世界選手権では金メダルを獲得。2023 年から、プロ車いすバスケットボールプレーヤーとして、競技のみならず普及活動にも力を入れている。



> *12歳で車いすバスケに出会い、年上のチームメイトと共に競技者として一つの目標に向かうことで、学校では得られない貴重な社会経験を積むことができました。車いすバスケは自分の人生そのものです。アンバサダーとして自分の義足姿を意識し、ハーフパンツで街に出ることで、多くの人、特に子供たちに義足で普通に歩く姿を見てもらい、ダイバーシティ & インクルージョン（D&I）が進むことを願っています。*
>
> *鳥海 連志*

Sustainability
サステナブルな社会への取り組み

国連グローバル・コンパクトの署名企業として、オットーボックは国連の17の持続可能な開発目標（SDGs）にも取り組んでいます。
オットーボックでは、このイニシアチブの成功に貢献したいと考え、SDGsをサステナビリティ戦略に組み込んでいます。当社の主要な持続可能性トピック、価値観および戦略の包括的な分析に基づき、オットーボックにとって最も関連性の高い7つのSDGsに狙いを定め、事業活動を通じてこれらの目標達成に貢献したいと考えています。

Diverse work styles
多様な働き方、すべての人が活躍できる環境

人を第一に考えるという私たちの使命は、ユーザーだけでなく、9,000 人を超える従業員にも当てはまります。当社の製品は、不平等を減少させ平等な機会を創造することを目指しています。そのため、私たちはダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンの模範となることを目指しています。私たちの目標は、すべての人を平等かつ公正に扱い、尊重し、すべての人が企業の成功に貢献し、自己の可能性を最大限に発揮できる健全な労働環境を創り出すことです。

社員メッセージ

共働きでフルタイム勤務、さらに幼児の子育て中です。世間ではワーママを取り巻く環境はまだまだ厳しいと言われていますが、2 人の子どもを出産した後、部署異動を許可してもらい、リモートワークを活用することでワーク・ライフ・バランスを保っています。育児や家事の負担が増える日々ですが、フレキシブルに働けることで子育て中の様々な事態にも対応しやすく、大変助かっています。 仕事をしている「ママではないときの自分」と共に「ママである自分」も認めてもらえていると実感しており、非常にありがたいです。 この環境に感謝し、会社や社会、そして自分のためにも働き続けていきたいと思っています。

杉村 優里恵 ｜ マーケティング部
2 度の産休・育休を経て、
現在は二人のお子さんを子育て中のワーキングマザー

We empower people.

Web Site
www.ottobock.com/ja-jp

オットーボック・ジャパン株式会社
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-9-9 野村不動産芝大門ビル 4 階 | 03-6739-4090（代表） | ottobock@ottobock.co.jp

ottobock.